

ひいばあちゃんが教えてくれたこと

浦添市立港川小学校三年 與座 諒真

ぼくのひいばあちゃんは
九十七才まで長生きした
白いかみの毛、やさしいおかお
おきなわの方言でにこにこ話す
家に行くとき
かならず手をにぎってくれた
やわらくて、ぬくぬくで
とってもあたたかい手
そして

「カメー、カメー。」
「もつと食べて、いっぱい食べて。」
おかしもくだものもたくさんくれた
おなかいっぱいでも、まだくれた
どうしてだろうふしぎだった

お父さんが教えてくれた
「ひいばあちゃんは
せんそうのときも、おわってからも
食べものがなくてね
とてもつらい思いをしたんだよ
だから子どもたちに同じ思いを
させたくなかったんだよ。」

ひいばあちゃんから昔に聞いた
せんそうの話も教えてくれた
「にげているときに、足に
ばくだんが当たってね、
足のかわが、ぎゅっとして
いたそうだったよ。」

「草むらにかくれているとき
アメリカへいに見つかってね、
でもアメリカへいは、
にがしてくれただよ。」
ひいばあちゃんはおきなわせんで

たくさんこわい思いをしながら
生きのびてくれた
その話を聞いて
ぼくはかなしくてこわくなった
心が、ぎゅっとくるしくなった
せんそうがなければよかったのに

もしあのせんそうでひいばあちゃんが
なくなっていたら、ばあちゃんも
お父さんもぼくも、ここには生まれてない
いのちはつながって
ぼくまできてくれた
今、楽しく学校に行けていること
大好きなみんなとすごせること
おいしいごはんがたべられることは
あたり前じゃないんだと思った

きよ年の十二月
ひいばあちゃんは天国に行った
ひいばあちゃんがつかないでくれたいのちを
ぼくはぜったい大切にするよ
ぬちどうたからにするよ

いれいの日を前にぼくは思う
みんながえがおでくらせる
へいわなせかいになってほしい
そのためにもぼくは
家ぞくやお友だちを大切に
やさしくおはなしたい
小さなやさしさをたくさんつんで
へいわなせかいにしたい
みんながもってきたへいわが
ずっとずっとつづきますように